



ひろみっこ

令和6年10月18日
富士市立広見小学校
学校だより 臨時号
校長 田中 尚志

「令和6年度全国学力・学習状況調査結果について」

先日の個別面談では、家庭と学校で話し合い、子供たちの頑張りや課題等について共通理解することができました。ありがとうございました。

さて、7月29日に全国学力・学習状況調査の結果が公表されました。教職員で調査問題を分析し、本校の子供たちの実態を踏まえ、指導の改善・充実を図る研修を行いました。この「臨時号」では、結果の概要について御報告いたします。今後も、学校と家庭が共通理解のもと、連携して子供たちの学力向上に取り組んでまいりたいと思います。

○全国学力・学習状況調査とは

全国学力・学習状況調査は、小学6年生と中学3年生を対象に行われています。文部科学省や教育委員会が全国的な児童・生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証することで、その改善を図ることが目的です。学校には、児童への教育指導の充実や学習状況の改善などに役立てることが求められています。

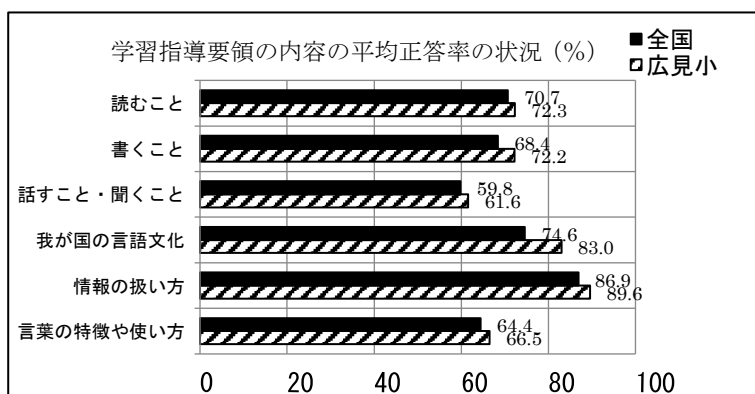
この調査は、「教科に関する調査」と、生活習慣や学習環境に関する「質問紙調査」で構成されています。「教科に関する調査」は、「知識・技能、思考力・判断力・表現力等は、相互に関係し合いながら育成されるもの」という新しい学習指導要領の趣旨を踏まえ、基礎知識と活用力を一体的に問うように構成されています。

○本校の調査結果と課題

〈国語科について〉

右のグラフは、国語科の領域別の正答率を示しています。全ての領域において、正答率が全国平均を上回っていました。

本校では、課題に対して「なぜ?」「どうして?」と子供自ら問いをもち、自分の思いや考えを友達と伝え合い、学びを深めようとする授業を目指して取り組んでいます。このような取組を通して、子供たちが日々の授業を大切に、主体的に学んでき

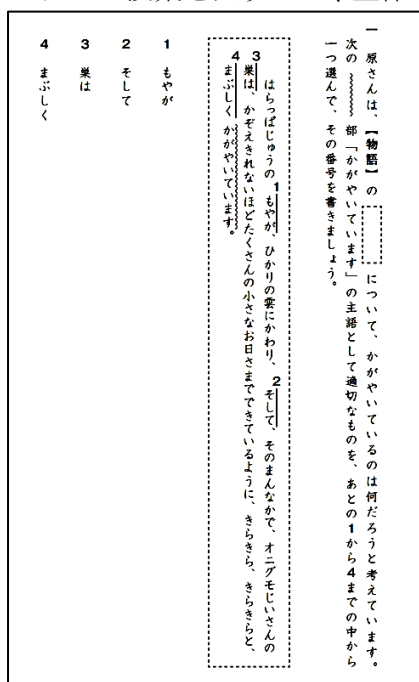


たことが成果につながったと考えます。

課題は、「言語の特徴や使い方に関する事項」の主語と述語との関係を捉える力が全国平均を下回っていること、漢字を文章中で正しく使う力の正答率が低かったことの2点です。

左図の問題では、主語を「～は」「～が」などを手掛かりに形式的に判別するのではなく、文の構成を理解した上で、主語と述語との関係を捉えることが必要です。本校では、主語を形式的に判別してしまい、「1. もやが」と誤答する子の割合が全国平均より多かったです。また、漢字では、「競技」と書く問題の正答率が50%を下回りました。「競」の字が書けない子が多かったです。

このことから、大まかに文章を読み取るのではなく、キーワードに注目して、内容を正確に読み取ることを意識することで、基礎基本的な力を習得できるように指導していきます。その上で、子供たちが自分とは違った考えに触れ、比較しながら聴くことで納得したり、多様な意見を聴いて考えることで、学びを深めたりすることができるよう授業展開を工夫していきます。

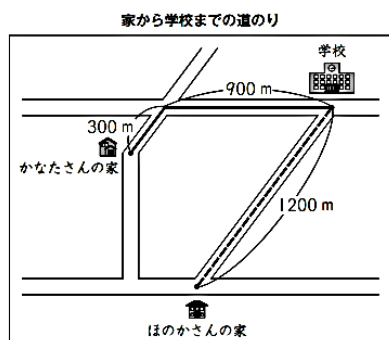


〈算数科について〉

算数科では、データを活用する力が全国平均を上回っていました。本校では、研修テーマを『情報活用能力を発揮し、学びを深める子の育成』としています。日々の授業でICTを効果的に活用し、情報を集め、整理したり、考えをまとめたりしてきた積み重ねの成果であると言えます。

しかし、その他の正答率は全国平均を下回っています。特に「変化の関係」の領域では、下図のような、道のりが等しい場合の速さについて、時間を基に判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる問題

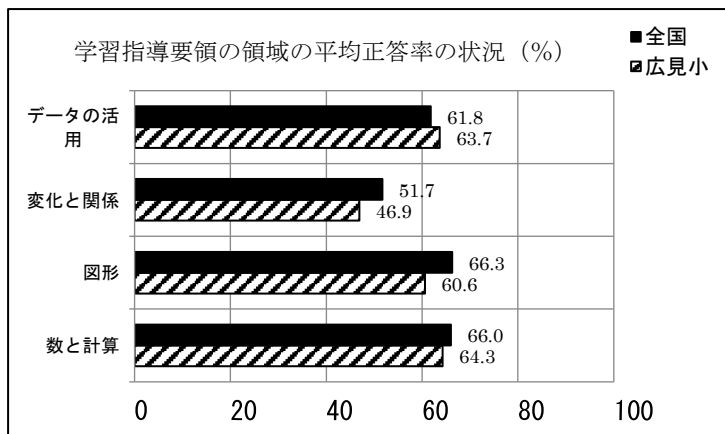
(3) かなたさんとはのかさんは、それぞれの家から学校まで歩いて行きました。



家から学校までの道のりは、上の図のとおりです。

家から学校まで、かなたさんは20分間、はのかさんは24分間かかりました。

それぞれの家から学校までの歩く速さを比べると、かなたさんとはのかさんのどちらが速いですか。



で、正答率が30%を下回っていました。子供たちは「かなたさんの方が速い」と判断できており、かなたさんとはのかさんが歩いた道のりが等しいことも記述できているが、かなたさんがかかった時間がはのかさんがかかった時間よりも短いことは記述できていない等の誤答が多かったです。そこで、最後までじっくり考える力、数量の比べ方や表し方について理解する力等を育成し、様々な問題を解決することができるように日常生活に生かす授業を工夫していきます。

また、「図形」の領域では、円柱や角柱の構成や性質について考察する問題で、正答率が全国平均を約10ポイント下回っていました。原因は、頭の中で図形をイメージすることができなかった点です。図形の学習では、観察や構成などの活動を通して、図形の性質について筋道を立てて考察することで、実感を伴いながら理解を深める授業を工夫していきます。

〈学習状況調査(児童生徒質問紙)について〉

今年度本校では、子供たちのゲームやSNS等の利用状況を調べ、生活リズムの整え方や友達との関わり方についてアドバイスをしています。

本校の子供たちは、ICT機器を学習に利用している割合が全国平均より上回っています。しかし、1日あたりのゲームやSNS等の利用時間も全国平均より上回っています。特に、4時間以上利用している割合が高いところがポイントです。右図からは、家の人と約束したことを守っている割合が全国平均より下回っていることも分かります。

ゲームやSNS等を利用した結果、生活リズムが乱れて体調を崩したり、友達関係が上手くいけなくなったりするケースが本校でも見られます。もちろん、約束を守って利用している子やほとんど利用していない子もいます。自分たちの利用の仕方が『普通』だと思いがちですが、今一度ゲームやSNS等の利用時間や利用方法を見つめ直し、御家庭でお子さんと約束について話し合ってみてください。お子さんが一日のうちにどのくらいの時間、どのようなゲームをしたり、動画を見たりしているのか、保護者の方がしっかりと把握した上で、学校では今後の付き合い方を保護者と一緒に考えていきたいと思ひます。

今後も、子供たちの良さを伸ばし、認めながら、よりよい生活が送れるよう支援してまいります。御家庭でも御支援、御協力をお願いいたします。

(質問) 携帯電話・スマートフォンやコンピュータの使い方について、家の人と約束したことを守っていますか。

